

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和8年度第1回岩手県公共事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和8年6月9日（火） 13:30～16:45

3 開催場所

エスポワールいわて 3階 特別ホール（盛岡市中央通1丁目1-38）

4 出席委員

武藤由子専門委員長、阿部伸史委員、伊藤幸男委員、迫井裕樹委員、松林由里子委員
（6名中5名出席）

5 議題等

（1）議事

ア 令和8年度専門委員会の開催スケジュール等について

政策企画課から、令和8年度公共事業評価専門委員会の審議内容及び開催スケジュールを説明。

イ 公共事業の再評価について

令和8年度再評価対象事業（総事業費50億円未満）として諮問があった13地区（農林水産部6地区、県土整備部7地区）について、事業担当課から評価内容の説明があり、これについて審議が行われた。

審議の結果、次の5地区について、次回以降、詳細審議を行うこととした。

【詳細審議地区】

- ・ 農村地域防災減災事業 樋茂井（奥州市）
- ・ 林道整備事業 翁沢線（西和賀町）
- ・ 漁港整備事業 重茂漁港（宮古市）
- ・ 総合流域防災事業（河川） 二級河川宇部川水系明内川 野田（野田村）
- ・ 都市計画道路整備事業 都市計画道路上野西法寺線 高善寺（一戸町）

■ 専門委員からの主な質疑、意見

【地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型） 一般国道281号 案内～戸呂町口（久慈市）】

（質疑）

今回の事業により、過去に河川氾濫による冠水被害を受けた区間は、今後同様の災害が発生しないような計画となっているか。

（回答）

冠水被害を受けた場所は、トンネルを整備することにより回避している。また、路面の高さと河川の水位の高さには高低差があり、基本高水の計画水位よりも高いところで計画しているため、前回の被災流量程度の出水であれば問題はないと考えている。

（質疑）

残土の運搬距離とトンネル支保工の変更による増額とあるが、その必要性が生じた状況について説明してほしい。

（回答）

残土の運搬距離変更による増額については、当初に予定していた残土捨て場の一部において、受入れが困難となったことや、近隣の別の道路事業で盛土材としての流用が可能となったことから、運搬先を変更したことによるものである。

トンネル支保工の変更による増額については、事業着手後に地質調査を行ったところ、当初の想定よりも地山が脆弱な部分が多いことが分かり、より補強が必要な区間が増えたことによるものである。

(質疑)

事前評価時に比べて、基本3便益が大きく増えている理由は。

(回答)

基本3便益については、事前評価時は簡便法、今回再評価時は交通量推計で算出している。

簡便法は、将来交通量を推計する際に、周辺道路から新たに転換する交通量は考慮していない。一方、再評価時は、費用便益比を算出するために、交通量推計を行っており、周辺道路から約200台の交通転換が見込まれているほか、影響を受ける周辺道路の便益の変化も考慮していることから、便益が大きく増加している。

【地域連携道路整備事業（地域密着型） 主要地方道花巻大曲線 笹峠（西和賀町）】

(質疑)

事業再開によって得られる効果について、西和賀町から具体的な活用方法の要望はあるか。

(回答)

西和賀町から具体的な要望はないが、周辺には、温泉地や正岡子規の歌碑などの観光資源があり、当該路線を活用することで、県境を挟んだ両県の観光や交流の促進に期待しているとの意向は伺っている。

(質疑)

観光資源としての活用を重視しているのか。

(回答)

そうした効果を期待しているものとする。元々道路が整備されていない箇所であることから、新しい道路によって、一定程度、西和賀地域から秋田県に向かう利便性は向上するものと考えられる。

【広域河川改修事業 二級河川新井田川水系瀬月内川 伊保内（九戸村）】

(質疑)

河川改修後はメンテナンスが重要であるが、52ページの費用項目の維持管理費とはメンテナンス費用のことか。また、増加している理由は。

(回答)

河川の維持管理費用であり、巡視や生えてきた木の伐採・処分費用、堤防部分の除草費用等である。増額の要因は、労務費の上昇、物価の上昇等である。

(質疑)

コスト縮減対策は、元々予定していたものか、社会情勢の変化によって新たに計画したものか。

(回答)

岩手県の公共事業においては、コスト縮減対策は必須となっており、当初から予定していたものである。河川の状況により、事業箇所ごとに対策を変えていくこととしている。

【総合流域防災事業（河川） 二級河川宇部川水系明内川 野田（野田村）】

(質疑)

ソフト対策の期間が長期化しており、洪水浸水想定区域図等は河川改修の度に作成することになると思うが、その費用もかさむのか。

(回答)

河川の改修前と改修後では、洪水浸水想定区域が変わるため、改修事業後に見直すこととなるが、毎年度見直す訳ではなく、一定区間が完成した段階で見直すこととしている。そのため、ソフト対策に過剰にコストがかかっている訳ではないと考えている。

(質疑)

水門管理など周辺との調整が必要と思われるが、その調整はどのように行われているか。

(回答)

河川管理者・水門管理者はいずれも県であることが多いため、県の内部で調整を行っている。水門は常時開放しており、津波警報の発令など、津波の恐れがあるときに閉鎖している。

(質疑)

分水路は、元々水路がなかった場所に作ったのか。

(回答)

元々小さな水路は存在していた可能性はあるが、河川としては新しく設置したものである。

(質疑)

残りの工事区間について、問題や危険性が発生する可能性は考えにくいのか。

(回答)

現在は設計段階であるが、現時点で大きな阻害要因は確認されていない。

【総合流域防災事業（河川） 一級河川北上川水系金流川 老松・永井（一関市）】

(質疑)

想定氾濫被害額が増加している要因は何か。

(回答)

治水経済調査マニュアルの改訂により、農地の被害額の算定方法が変更されたことに伴い、便益が大きく増加したことによるものである。

(質疑)

「洪水」という言葉は、河川の水位が上がっている状態を示すものであって被害そのものではないが、この表現を用いている理由は何か。

(回答)

気象庁では言葉が変更されているが、岩手県の公共事業の説明においては、浸透状況等を踏まえ従来の言葉を使用している。

【通常砂防事業 一級河川北上川水系 白山の沢（滝沢市）】

(質疑)

用地問題により設置位置が変更され、設計の見直しがあったと思うが、期待される効果に変わりはないか。

(回答)

そのとおり。

(質疑)

土砂災害警戒区域の指定を進めたことで、住民や自治体の活動・行動に変化はあったか。

(回答)

土砂災害警戒区域の説明会等を行っているが、出席者数については大きな変化は見られていない。一方で、小学生・中学生を対象とした土砂災害の出前講座では、小学生の反応が良く、先生方からも継続を希望する声がある。このことから、土砂災害や避難の必要性などの理解が浸透しているものと考えている。

(質疑)

砂防施設を下流側に移すことで、堰堤の規模が大きくなり費用が増加する可能性はないか。

(回答)

経済性も含め、複数案を比較しながら現在検討を行っている。

(質疑)

維持管理費も発生すると思うが、どのように考えているか。

(回答)

受ける土砂量についてはほとんど変わらないため、管理用道路の設置などによりメンテナンスしやすいような形となるよう整備を考えている。

(質疑)

便益項目の内訳がないが、被害軽減的な効果が総便益に含まれているのか。

(回答)

そのとおり。

【都市計画道路整備事業 都市計画道路上野西法寺線 高善寺（一戸町）】

(質疑)

今回の事業で踏切を新たに設置するということか。

(回答)

そのとおり。町道が平面交差している既存の踏切を廃止し、新たに県道に踏切をつけるため、踏切の個数自体は変わらない。

(質疑)

それによって交通は改善されるのか。

(回答)

現在の町道の踏切は、幅員が狭く、大型と普通車両のすれ違いが困難となっている。本事業によって幅員が広がるため、円滑な交差が可能となり、交通の便は良くなると考えている。

(質疑)

開かずの踏切になる可能性はないか。

(回答)

現状、IGR の運行間隔は概ね 30 分に 1 本であり、朝方の時間帯でも上下線ともに列車の通過には 10 分以上の間隔があるため、その懸念は小さいと考えている。

【経営体育成基盤整備事業 西黒沢（一関市）】

(質疑)

湧水や岩盤の処理が必要になったとのことだが、事業計画時には把握できないものなのか。

(回答)

圃場整備の計画は広範囲に及ぶものが多く、全てを把握するにはコストがかかるため難しい。水田の汎用化に向け、地下水位を確認するため水田ごとに坪堀り調査は行っているが、予期せぬ湧水や岩盤が確認されることもあるため、その都度対応していくことが多い。

(質疑)

事前に念入りな調査をしてから事業を始めるよりも、事業を始めてから追加費用が発生する方が結果的にコストの縮減になるのか。

(回答)

湧水は水脈の把握が難しく、調査には費用がかかるため、施工しながら対応するケースが多い。また、岩盤についても、全区域でボーリング調査などを行うのは困難である。地元の方に昔の情報などを聞きながら的確に把握できる情報があれば、その情報の活用を考えることも重要と考えている。

(質疑)

施工区域の除外が多い要因は。

(回答)

ため池の所有者が、引き続き自ら所有したいという要望があったためである。

(質疑)

今回再評価時に、国産農産物安定供給効果が大きくなっている理由は。

(回答)

カロリー一分が加算されるようになったためである。

【中山間地域総合整備事業（一般） 江刈（葛巻町）】

(質疑)

本事業により、冠水被害はどのくらい軽減されるのか。

(回答)

10 年確率で算定した水路断面を採用しているため、その規模の降雨に対する冠水被害の軽減が図

られると考えている。

(質疑)

過去に農地整備は実施済の箇所か。

(回答)

過去に1回実施しており、今回は水路や農道整備などを含めた総合的な整備を行っている。

(質疑)

この地区は、水田は少ないのか。

(回答)

基本的に酪農が盛んな地域である。本事業において道路整備が多く含まれているのも、運搬などを加味した内容となっているためである。

(質疑)

希少野生生物への対応は、水路全体に碎石を準備するイメージか。

(回答)

水路全体ではなく、希少野生動植物が確認された一部区間において重点的に対応している。

【農村地域防災減災事業 樋茂井（奥州市）】

(質疑)

田んぼダムとしての活用効果はあるのか。

(回答)

本地区は、老朽化した水路に対する工事であるため、田んぼダムの活用は計画しておらず、今後取り組む予定もない。

(質疑)

掘削を行ったところ巨石が見つかったとのことだが、広範囲だと事前に予測することは難しいのか。

(回答)

既存の水路内に巨石が存在していることは一定程度確認していたが、事前に正確に把握することは難しく、掘削し始めてから予想以上の巨石が確認された状況である。

【林道整備事業 翁沢線（西和賀町）】

(質疑)

北上市への出荷が見込まれる場所とのことだが、重要度が高い事業ということか。

(回答)

そのとおり。北上市には大きな木材工業団地があるため、需要先として当然想定される。また、近年、秋田県能代市には高い生産処理能力を有する国内最大手の民間工場が建設され、小繋沢（翁沢線の立地する場所）は、秋田県の県境に近い立地環境のため、秋田方面からの需要も見込まれると考えている。

(質疑)

測量杭の流出はよくあることか。

(回答)

経験上、そうそう起こり得ることではない。本地区は豪雪地域であり、雪や雨により腐朽が進行したり、融雪時に地形に沿ってグライドし、強い圧力が加わることで引き抜かれた可能性があると考えている。

(質疑)

林齢はどのくらいか。主伐期に差しかかっているのであれば、急いだ方が良いのではないか。

(回答)

約6割が木材として収穫していくような林分になっている。また、人工林は、51年生の人工林面積が107haと利用区域の約44%を占めている状況であり、伐期に差しかかっている森林が多いため、急ぐことに越したことはないと考えている。

(質疑)

ボランティア誘発便益とは何か。

(回答)

清掃活動等のボランティア活動が見込まれるかどうかというものである。

【林道整備事業 ナイヨウ沢線（岩泉町）】

(質疑)

評価指標の地元の協力体制が「非常に良い」から「良い」になった理由は。

(回答)

当初は申請者である岩泉町から強い要請があり事業化したものの、用地問題で事業が進められていない状況であることを踏まえ、評価を一段階下げた。土地所有者が林道事業自体に反対している訳ではないため、地元の岩泉町からは、引き続き同意を得られるよう努めていきたいとの意向は伺っている。

(質疑)

町場に近い場所であるため地籍調査は既に入っているのではないかと思うが、それでも用地問題が発生しているのか。また、起点付近で問題が生じており、着手もできない状況なのか。

(回答)

土地の境界の問題というよりは、土地に関して認識の不一致があり、そこが事業予定地に含まれている状況。また、問題になっている箇所は起点に近い場所であるため、途中まで工事を進めることもできない状況となっている。

【漁港整備事業 重茂漁港（宮古市）】

(質疑)

事業目的として安全性の向上も挙げられているが、災害に対する安全の向上が見込まれているということか。

(回答)

そのとおり。

(質疑)

-3 m岸壁や-2 m物揚場の数字は何を意味しているのか。

(回答)

-3.0mを境にして、それ未満のものを物揚場、それ以上のものを岸壁と呼んでいる。干潮時点を0 mとしたときの水深の名称である。

(質疑)

費用便益項目の「漁業就業環境の向上」が減少しているのはなぜか。また、「地域産業の活性化」や「自然保全・文化の継承」が増えている理由は。

(回答)

「漁業就業環境の向上」は、臨港道路の整備に伴う漁業就業者の労働環境改善効果を見込んだものであり、作業対象時間等の更新をした際に減となった。

「地域産業の活性化」については、漁場造成によりアワビ漁獲量が増加し、加工業者における干しアワビ等の輸出量の増加が見込まれることによるものである。当初は見込んでいなかったが、水産庁との調整の中で、今回新たに計上した。

「自然保全・文化の継承」については、増殖場整備により藻場が増加し、有機物除去による水質浄化が見込まれることによるものである。下水道費用に換算した形で算定しており、単位生育量を見直した結果、増となった。

(質疑)

35 ページの「その他施設」は、道路の法面以外にも何か含まれるのか。

(回答)

当該項目には、道路と法面を計上しており、それ以外の施設は含まれていない。

ウ その他
特になし

(2) 会議資料

- 資料 No. 1 令和8年度公共事業評価専門委員会開催スケジュール等（案）
- 資料 No. 2 諮問書の写し
- 資料 No. 3 令和8年度公共事業再評価地区 位置図
- 資料 No. 4 令和8年度公共事業再評価調書
- 参考資料1 詳細審議対象地区の選定について
- 参考資料2 公共事業評価に係る評価基準について

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0人 報道 3社

7 問い合わせ先

〒020-8570 盛岡市内丸10番1号
岩手県政策企画部政策企画課 TEL：019-629-5181 FAX：019-629-6229

8 アドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/koukyouhyouka/1099262/1099266.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先までご連絡ください。今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。